書式第１２号（法第２８条関係）

平成 31 年度　事業報告書

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

1. 事業の成果

A　環境教育の事業

A.1　環境教育プログラム研究開発・実践活動・発信活動

A.1.1 環境教育プログラムの研究開発

- 年間 6 回開催した環境学習体験会（プログラムづくりワークショップ）を軸に環境教育のプログラムづくりが進められた。内容は以下の通り。

2019 年度環境学習体験会（プログラムづくりワークショップ）

05 月 26 日（日）　プログラム体験「季節の自然で遊ぼう」
・ビオトープの自然を、カードを使って味わおう。

06 月 23 日（日）　プログラム体験「風となかよし」
・創作童話「アホネコジャラシとしんぴ広場」の紙芝居をつくろう。

09 月 29 日（日）　プログラム体験「綿から糸を紡ごう」
・糸から布をつくる活動をプログラム化しよう。

10 月 20 日（日）　プログラム体験「どんぐりコロコロ　お山はおおさわぎ」
・秋の落とし物を使った工作に挑戦しよう。

01 月 26 日（日）　プログラム体験「水となかよし」
・Project WET のアクティビティを体験しよう。

02 月 23 日（日）　プログラム体験「地球温暖化を知ろう」
・コンポストづくりと、ゴミと温暖化との繋がりを知ろう。



5 月 26 日　環境学習体験会
ビオトープでの自然体験



6 月 23 日　環境学習体験会
教材づくり体験



2 月 23 日　環境学習体験会
コンポストづくり体験

- 環境学習体験会全体では、紙芝居などの教材づくりのワークショップ、自然体験や手仕事に関する既存の環境学習プログラムを体験できる学習会、ビオトープの保全活動の体験など、多岐にわたる取り組みを試すことができた。東京家政大学 宮地ゼミとの連携もあり、計 6 回の活動に 82 人（うちスタッフ 23 人）が参加し、活発な議論が行われた。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	**2019**
回数	-	-	-	-	-	-	-	7	8	6	8	7	**6**
参加者数	-	-	-	-	-	-	-	74	82	74	166	101	**82**
1回あたり	-	-	-	-	-	-	-	10.6	10.3	12.3	20.8	14.4	**13.7**

本活動を通じては、「アホネコジャラシとしんぴ広場」の紙芝居も作成した。教材の洗練化や新たなプログラム案の検討の場としては広がりがみられたものの、社会人など新たな参加者の受け皿になる役割を担いきれなかった点は課題である。

- 昨年度より実施している環境学習プログラム研究会は、臨機応変に実施できるプログラム開発の場となった。作業日も含めて計 3 回の活動に 16 人が参加した。今後、現役の教員などの参加が増える活動へと推移させていきたい。
- 保育園向けプログラム開発は、出張授業数の増加にあわせた洗練化が主となった。

	自然体験活動　ほか		
	導入アクティビティ	紙芝居型プログラム	その他アクティビティ
保育園	キロリのおにごっこ コウモリとガ　※ 落ち葉じゃんけん　※ 音いくつ　※	いも虫のたからぶくろ 木の精キロリのひみつのいのり どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ はらっぱのかくれんぼ大会 風となかよし 森と子どものひみつ作戦 （木の表情ってどんなだろ） 土のこびと	同じものはどこにある

※　ネイチャーゲーム アクティビティ を利用した活動

- 小学校でのプログラム開発は、昨年度に引き続き、出張授業数の増加にあわせた洗練化が主となった。その中で、新しいプログラムとして、コンポストづくりの体験と地球温暖化の学習とを組み合わせた「地球温暖化を知ろう」を開発し、体験会で実証を行った。教材開発の面では、形探しの自然体験活動の導入として紙芝居「アホネコジャラシとしんぴ広場」をプログラム「大豆ってすごいぞ」の導入用に紙芝居「花ちゃんとまめっこ」を作成した。これらは、今年度の環境学習体験会での検証を踏まえ、次年度プログラムとして完成させていく方向である。

		自然体験活動	食と暮らし	エネルギー教育
小学校	低	季節の自然で遊ぼう		風となかよし
	中	好きな色はどこにある そっとのぞいて見てみよう 学校の木を決めよう ヤゴ救出大作戦	大豆ってすごいぞ 学校産のとうふを作ろう 手前みそを作ろう 綿を育てよう 綿から糸を紡ごう 地球温暖化を知ろう（コンポスト）	お日さまとなかよし 水となかよし
	高	わたしの木・ぼくの木	食べものはどこから ペットボトルの水	放射線から身体を守る生活の仕方 エネルギー源を考える
中学校			旬の野菜を調べよう ※要改定	50年後の板橋を考えよう

- ニュース発送作業を兼ねた定例のワークショップも継続的に実施した。11 回の活動で、延べ 74 人の参加があった。1 回あたりの参加者は 6.7 人となり、昨年の 5.7 人から若干減となった。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	**2019**
回数	-	-	17	14	18	22	22	17	13	13	11	11	**11**
スタッフ数	-	-	134	85	91	115	108	98	88	73	68	63	**74**
1回あたり	-	-	7.9	6.1	5.1	5.2	4.9	5.8	6.8	5.6	6.2	5.7	**6.7**

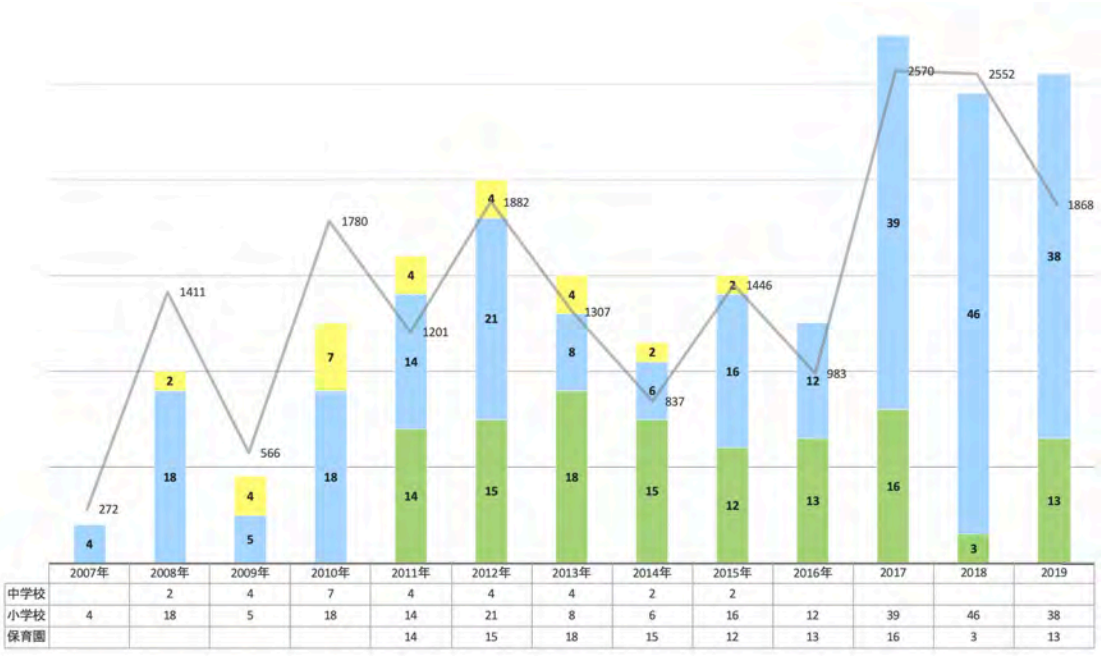
A.1.2 環境教育プログラムの発信活動

- 2015 年に出版した「みんなワクワク どんどん使える センスオブアースの環境教育実践集」の販売に関しては Amazon より 2 冊が販売された。
- HP 版プログラムバンクを適宜更新した。

A.1.3 環境教育プログラムの実践活動

- 18 の保育園・児童館・小学校で、年間 51 回（うち児童館 1 回・寺子屋 4 回・あいきっず 1 回）の出張授業を実施した。1,868 人（うち児童館 30 人・寺子屋 57 人・あいきっず 15 人）の園児・児童・生徒に環境教育の機会を提供することができた。この結果、これまでの累計で、398 回の授業を実施し、その対象人数は 19,017 人となった。昨年度と比較し、回数こそ若干の落ち込みが見られたものの、対象者数は昨年とほぼ並ぶ数となった。

  昨年度から始まったエコポリスセンターからの委託事業により、上記 51 件のうち 35 件がエコポリスセンター経由の申し込みであった。



	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017	2018	2019
中学校		2	4	7	4	4	4	2	2				
小学校	4	18	5	18	14	21	8	6	16	12	39	46	38
保育園					14	15	18	15	12	13	16	3	13



5 月 31 日　出張授業
「そっとのぞいてみてみよう」

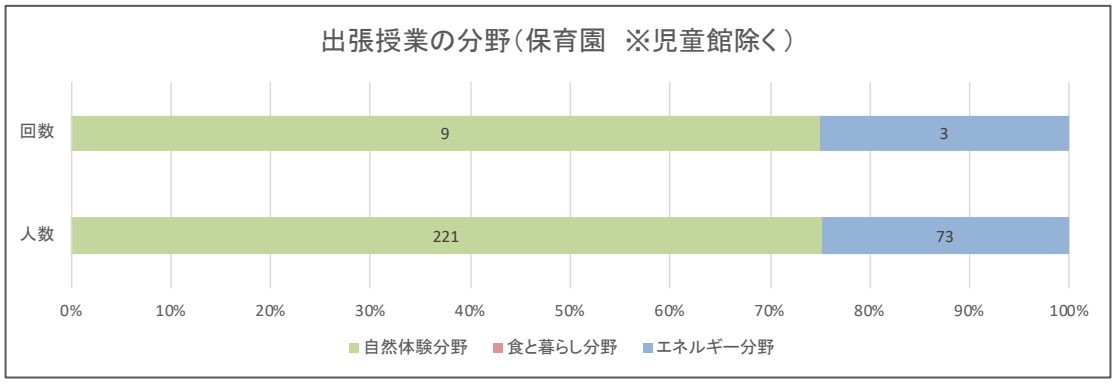


6 月 25 日　出張授業
「大豆ってすごいぞ」



2 月 15 日　出張授業
「風となかよし（中学年版）」

- 保育園・児童館における取り組みは、保育園 9 園・児童館 1 館で計 13 回に及び、その対象者数は 324 人（うち児童館 30 人）となった。
保育園におけるプログラムの内訳では、自然体験分野の「はらっぱのかくれんぼ大会」が 4 回、「どんぐりころころ お山はおおさわぎ」が 2 回ほか、エネルギー教育分野の「風となかよし」が 2 回となった。
　児童館におけるプログラムは、「木の精キロリの秘密の祈り」の中のイチョウの葉っぱを使った造形活動を行った。



保育園・児童館での実践の内訳は以下の通り。

日付	保育園・幼稚園名	対象（人数）	プログラム名	備考
05月09日	高島平つくし保育園	4・5歳児（30人）	おひさまとなかよし	
05月23日	ほっぺるランド大谷口	4・5歳児（35人）	いも虫のたからぶくろ	
05月31日	さくらさくみらい中板橋	5歳児（15人）	はらっぱのかくれんぼ大会	
06月06日	やまと保育園	4・5歳児（38人）	はらっぱのかくれんぼ大会	
06月11日	ほっぺるランド成増	3～5歳児（21人）	はらっぱのかくれんぼ大会	
06月20日	新河岸保育園	3～5歳児（30人）	はらっぱのかくれんぼ大会	
07月18日	ほっぺるランド大谷口	4・5歳児（28人）	風となかよし	
10月23日	第二たつのこ保育園	4・5歳児（19人）	どんぐりコロコロ	
11月07日	ほっぺるランド大谷口	4歳児（18人）	木の表情ってどんなだろう	
11月14日	小桜保育園	4・5歳児（31人）	どんぐりコロコロ	
11月18日	しらさぎ児童館	参加者（30人）	イチョウの精キロリの不思議ないのり	児童館
02月13日	小桜保育園	5歳児（15人）	風となかよし	
03月19日	こぶし保育園	5歳児（14人）	いも虫のたからぶくろ	

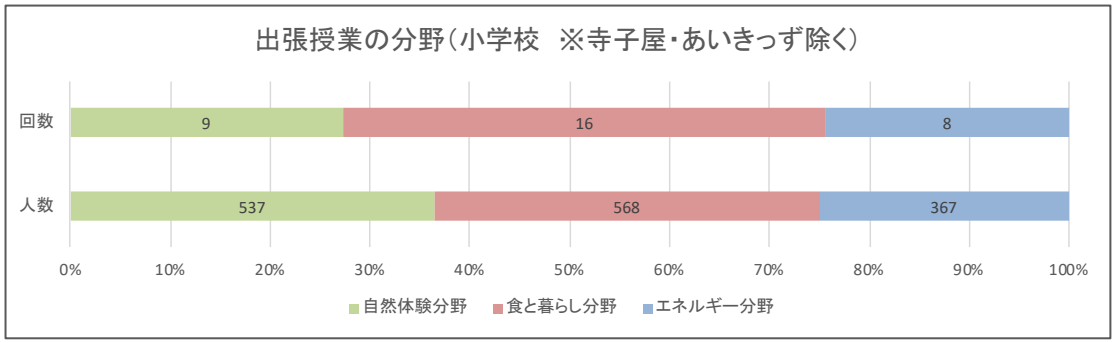
保育園では、3 園（区立 1 園・私立 2 園）で新たな実践を行った。その結果、対象となった保育園・幼稚園は 9 園（区立 4 園・私立 5 園）であった。区立保育園（公設民営含む）・区立幼稚園全 40 園に対して、これまでの活動を総合すると、30 園で授業を実践しており、その広がりは約 75%に至っている。
児童館での実践は、初めての試みとしてしらさぎ児童館での実践となった。

相生	赤塚	赤塚新町	あさひが丘	板橋	大谷口
かないくぼ	上板橋	紅梅	小桜	さかうえ	坂下三丁目
志村橋	新河岸	高島平あやめ	高島平くるみ	高島平けやき	高島平さつき
高島平すみれ	高島平つくし	高島平つばみ	高島平もみじ	東新	ときわ台
中板橋	西台	西前野	蓮根	緑が丘	みなみ
南前野	向台	向原	弥生	ゆりの木	若木
こぶし	にりんそう	高島幼稚園	新河岸幼稚園		

2019年度 実施　2019年度 新規開拓　過去の実施

※ 2019年度実施の 第二たつのこ保育園・ほっぺるランド大谷口・ほっぺるランド成増・さくらさくみらい中板橋・やまと保育園 は私立保育園（下線は新規開拓園）
※ 過去実施の ひまわりキッズガーデン城山・ひまわりキッズガーデン大原・栄町保育園・志村さかした保育園・麦の子保育園・つつじ保育園・大山西町保育園・仲宿保育園 は私立保育園

- 小学校における取り組みは、14 校で計 38 回（うち寺子屋 4 回・あいきっず 1 回）に及び、その対象者数は 1,544 人（うち寺子屋 57 人・あいきっず 15 人）となった。プログラムの内訳では、食と暮らし分野の「学校産のとうふをつくろう」が 11 回、「手前みそを作ろう」が 2 回に加え、大豆栽培の導入授業である「大豆ってすごいぞ」を 2 回実施した。「綿から糸を紡ごう」の 1 回を含め、ものづくりに関わるプログラムの実践が計 16 回と授業回数の約半数を占めた。
  自然体験分野では、例年一番の人気となっていた「季節の自然で遊ぼう」が 4 回、「そっとのぞいてみてみよう」が 5 回の実戦となり、自然体験分野での取り組みは計 9 回となった。
  エネルギー教育分野では、「風となかよし」が 5 回、今年度初めての実践となった「おひさまとなかよし」が 2 回、高学年向けの「50 年後の板橋を考える」が 1 回と、計 8 回の実践となった。
  あわせて、出張授業の延長線として、昨年度同様、前野小学校の寺子屋指導を 4 回行った。内容は、「おひさまとなかよし」「風となかよし」「季節の自然で遊ぼう」「万華鏡をつくろう」で、計 57 人が参加した。また、今年度初めての実践となったあいきっずでは、「風となかよし」を行い、15 人が参加した。



小学校での実践の内訳は以下の通り。

日付	学校名	対象（人数）	プログラム名	備考
04月22日	板橋区立志村第二小学校	2年生（81人）	季節の自然で遊ぼう	
05月10日	板橋区立志村第二小学校	1年生（84人）	季節の自然で遊ぼう	
05月18日	板橋区立前野小学校	参加者（12人）	おひさまとなかよし	寺子屋
05月30日	板橋区立板橋第二小学校	1年生（34人）	そっとのぞいてみてみよう	
06月13日	板橋区立板橋第二小学校	3年生（36人）	そっとのぞいてみてみよう	
06月15日	板橋区立前野小学校	参加者（15人）	風となかよし	寺子屋
06月25日	板橋区立板橋第二小学校	3年生（36人）	大豆ってすごいぞ	
07月02日	板橋区立高島第五小学校	3年生（17人）	大豆ってすごいぞ	
07月08日	板橋区立上板橋小学校	3年生・5組（62人）	手前みそを作ろう	
07月09日	板橋区立高島第五小学校	3年生（17人）	そっとのぞいてみてみよう	
09月12日	板橋区立志村第二小学校	2年生（86人）	そっとのぞいてみてみよう	
09月19日	文京区立青柳小学校	1年生（78人）	そっとのぞいてみてみよう	
09月21日	板橋区立板橋第二小学校	1年生（34人）	季節の自然で遊ぼう	
10月01日	板橋区立上板橋小学校	参加者（15人）	風となかよし	あいきっず
10月03日	板橋区立弥生小学校	2年生（47人）	風となかよし	
10月10日	板橋区立富士見台小学校	2年生（30人）	おひさまとなかよし	
10月19日	板橋区立前野小学校	参加者（15人）	季節の自然で遊ぼう	寺子屋
10月24日	板橋区立若木小学校	3年生（52人）	学校産のとうふを作ろう	
10月28日	板橋区立富士見台小学校	2年生（30人）	おひさまとなかよし	
10月29日	板橋区立板橋第一小学校	3年生（34人）	学校産のとうふを作ろう	
10月30日	板橋区立若木小学校	3年生（52人）	学校産のとうふを作ろう	
10月31日	板橋区立板橋第一小学校	3年生（34人）	学校産のとうふを作ろう	
11月13日	板橋区立紅梅小学校	3年生（40人）	学校産のとうふを作ろう	
11月16日	板橋区立前野小学校	参加者（15人）	万華鏡をつくろう	寺子屋
11月19日	板橋区立板橋第一小学校	3年生（33人）	学校産のとうふを作ろう	
11月21日	板橋区立紅梅小学校	3年生（38人）	学校産のとうふを作ろう	
11月26日	板橋区立高島第五小学校	3年生（15人）	手前みそを作ろう	
11月28日	板橋区立紅梅小学校	3年生（39人）	学校産のとうふを作ろう	
12月10日	板橋区立高島第五小学校	3年生（16人）	学校産のとうふを作ろう	
12月21日	板橋区立弥生小学校	3年生（48人）	風となかよし	
01月23日	板橋区立板橋第二小学校	1年生（34人）	風となかよし	
01月30日	板橋区立板橋第二小学校	3年生（36人）	学校産のとうふを作ろう	
02月04日	板橋区立高島第五小学校	3年生（14人）	綿から糸を紡ごう	
02月06日	板橋区立志村第二小学校	2年生（87人）	季節の自然で遊ぼう	
02月15日	板橋区立常盤台小学校	3年生（90人）	風となかよし	
02月18日	板橋区立板橋第六小学校	1年生（60人）	風となかよし	
02月20日	板橋区立北前野小学校	3年生（50人）	学校産のとうふを作ろう	
02月27日	板橋区立前野小学校	6年生（28人）	50年後の板橋を考えよう	

小学校では、寺子屋・あいきっずを除き板橋区内 2 校で新たな実践を行った。その結果、対象となった小学校は計 14 校（区内 13 校・区外 1 校）であった。区内小学校に関して、これまでの活動を総合すると、44 校で授業を実践しており、その広がりは約 85%に至っている。

志村	志村第一	志村第二	志村第三	志村第四	志村第五
志村第六	前野	中台	舟渡	新河岸	富士見台
蓮根	蓮根第二	志村坂下	北前野	緑	若木
板橋第一	板橋第二	板橋第四	板橋第五	板橋第六	板橋第七
板橋第八	板橋第十	金沢	中根橋	加賀	上板橋
上板橋第二	上板橋第四	常盤台	桜川	弥生	大谷口
向原	赤塚	成増	赤塚新町	紅梅	北野
成増ヶ丘	下赤塚	徳丸	三園	高島第一	高島第二
高島第三	高島第五	高島第六	天津わかしお		

2019年度 実施	2019年度 新規開拓	過去の実施

- 中学校・高等学校では、本年度、出張授業の取り組みは行わなかった。
- これらは、SOE のメンバーが中心になりながら、ボランティアに支えられて成り立っている。今年度は 51 回の活動で、延べ 203 人が参加した。1 回あたりの参加者は約 4.0 人で、昨年とほぼ同数となったが、より一層のスタッフの充実が求められる。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	**2019**
回数	5	23	10	28	34	41	31	23	30	20	55	49	**51**
スタッフ数	-	-	54	130	147	179	98	73	88	53	206	183	**203**
1回あたり	-	7.4？	5.4	4.6	4.3	4.4	3.2	3.2	2.9	2.7	3.7	3.7	**4.0**

A.2　環境教育指導者（主体）養成事業

A.2.1 環境教育ボランティア・インターンシップ

- 環境教育指導者の養成事業を継続した。プログラムづくりワークショップを軸に、環境教育インターンシップ・ボランティアの受け入れ体制をつくった。
- 環境講座などを通じて、一般市民を対象とした環境教育ボランティアの募集も行った。

A.2.2 地域主体の支援（プログラムの共同開発ほか）

- 大学のゼミ活動など、環境教育の地域における担い手を育成する事業を継続する。本事業年度は、東京家政大学の宮地ゼミの支援が中心となり、みその仕込み体験なども支援した。

A.2.3 教員養成・教員向けの講座

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

A.3　環境教育協働推進事業（環境教育ネットワーク構築活動）

A.3.1 環境教育協働実践

-

A.3.2 プログラムの共同開発

- 寺田が板橋区環境教育プログラム部会に参加。環境教育のプログラム研究開発に携わるとともに、センスオブアースの環境教育プログラムを周知する。

B　環境保全の事業

B.1　自然環境保全活動

B.1.1 ビオトープ保全活動

- 蓮根第二小学校のビオトープについて、引き続き、定例の保全活動に参加した。

B.1.2ごみ拾い活動

- 全国一斉水質検査に参加し、新河岸大橋・浮間池の 2 か所の検査を行った。

B.1.3 緑地の保全・拡張に向けた活動

- 北野がいのちの森の運営委員として関わる。

B.2　地産地消推進活動

B.2.1 栽培活動

- 柳が中心に大豆・棉の栽培を進め、収穫物を出張授業・イベントへと活用した。

B.3　自然エネルギー推進活動

B.3.1 自然エネルギー普及活動

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C　社会教育の事業

C.1　エコツアー事業

C.1.1 沖縄・備瀬エコツアー

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.1.2 三宅島エコツアー

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.2　自然観察会・各種環境講座

C.2.1 自然観察会

- 今年度は該当の活動を実施しなかった。

C.2.2 環境講座

- 【3.11 から未来をひらく会】の所属団体として、3 月 15 日に映画「ある牛飼いの記録」上映会、関連して鵜沼久江氏のトークと、福島中央テレビの佐藤崇氏をお招きし、講演会「原発事故から 9 年 福島のいまを考える」を企画した。
  主催 7 団体と有志の個人が参加し、会議の継続的な開催や環境なんでも見本市への出展など活動の新たな展開が見られたが、新型コロナウイルスの広がりを受けて、イベント自体は中止となった。
- 12 月に板橋区との環境協働プロジェクトとして、みそづくりワークショプ「手前みそを作ろう」を実施。東京家政大学宮地ゼミの学生とともに、みその仕込み体験をセンスオブアースが主導したほか、東京家政大学短期大学部家政学部栄養学科教授の宮尾茂雄氏をお迎えして、講演会「発酵の力と健康」を開催し、22 人が参加した。
- 7 月に設立 15 周年を記念した取り組みとして、川内博氏をお迎えして講演会「身近な鳥・都市鳥の話　東京 vs パリ」を開催。23 人が参加した。

C.3　各種イベント出展

C.3.1 イベント向けプログラム研究開発

- イベントのテーマや環境などを踏まえ、随時プログラムの準備を進めた。

C.3.2 外部イベント出展

- 4 月に代々木公園でのアースデイと並行して開催しているアースデイ いのちの森に 10 年連続で出展。紙芝居をつかったネイチャーゲームなどを実施した。

C.3.3 板橋区協働イベント出展

- 4 月に板橋区（緑と公園課）が主催するグリーンフェスタに出展。かざぐるまの工作や紙芝居を使った自然体験を行った。
- 8 月にエコポリスセンターが主催する夏休みエコスクールに出展。「ピカッと光る水力発電機をつくろう」というタイトルで、水の循環体験ゲームと水力発電機づくりを実施した。
- 2 月に環境なんでも見本市に出展。かざぐるまなどの工作活動を実施した。

C.4 板橋区指定管理者受託

C.4.1 板橋区立ボローニャこども絵本館管理業務委託

- 平成 30 年度をもって、委託事業は終了となった。

D まちづくりの事業

D.1 環境保護・再生を中核としたまちづくり事業

D.1.1 事業検討

- 環境保護・再生を中核としたまちづくりを目指した事業検討を行なった。

E 福祉の事業

E.1 高齢者等の環境活動参加促進事業

E.1.1 事業検討

- 高齢者等の環境活動参加促進を目指した事業検討を行なった。

F 学術・文化・芸術又はスポーツの振興事業

F.1 環境調査推進事業

F.1.1 事業検討

- 地域の生態調査をはじめとする環境調査の促進を目指した事業検討を行なった。

G 団体運営業務

G.1 組織運営

G.1.1 一般管理

- 6 月に 2019 年度の年次総会を開催。活動報告・会計報告・活動方針・会計方針について報告し承認を得る。

G.1.2 理事・事務局関連

- 運営体制の強化に向けて、理事会を定期的に開催した。年間 4 回開催し、理事を中心としたイベントの運営体制の確立や活動の計画などを議論した。
- 事務局では、活動報告・会計報告に関して、書類を整理し報告にあたる。その他、運営・経理・広報などの事務局業務を随時行う。

G.1.3 会員関連

- 会員の呼びかけを進め、正会員数は 37 人、賛助会員数は 3 人となった。

G.1.4 記念活動

- 設立 15 周年を記念して、講演会を開催した。(詳細は環境講座参照)

G.2　経理関係

G.2.1 一般会計

- NPO 法人会計基準協議会の定める NPO 法人会計基準に基づいた会計処理を実施した。

G.2.2 助成金申請関連

- 2020 年度に向けた助成金の申請などを行う。

G.3　広報関連

G.3.1 ニュース発行関連

- 8 月を除く年間 11 回のニュース発行を実施。板橋区内の全保育園・小中学校や教育委員会・各種報道関係など、毎月約 3,300 部を発送した。

G.3.2 ホームページ関連

- オフィシャルサイトを定期的に更新し、イベントの案内や団体の周知を進めた。
- 特設ページ「SOE プログラムバンク」では環境教育のプログラムや資料などを発信した。
- Facebook ページに関しても、随時更新した。

G.3.3 団体紹介

- センスオブアースの活動紹介資料を随時改定した。

G.4　渉外関連

G.4.1 協働推進関係

- 平成 29 年度からのエコポリスセンターの指定管理者変更を受けて、新管理者の板橋エコみらいプロジェクトの担当者と環境教育の協働や運営に関する意見交換を行う。計 4 回行い、速やかで発展性のある協働の出張授業のスタイルを作り上げることができた。